

課題名：【1-1903】参加型データベースによる持続可能な資源管理と農村社会形成に関する研究

実施期間：2019～2021 年度

研究代表者：奥田敏統

所属：広島大学大学院統合生命科学研究科

重点課題 主：【重点課題①】持続可能な社会の実現に向けたビジョン・理念の提示

副：【重点課題③】環境問題の解決に資する新たな技術シーズの発掘・活用

本研究のキーワード：非木材林産物、後発開発途上国、森林減少・劣化、熱帯生態系、ミャンマー

### ■研究の背景と目的

森林減少・劣化の抑止及び、途上国の貧困改善の手段として、非木材林産物（NTFP）が注目を集めています。その不安定な市場動向や違法採取など多くの課題を抱えるため、NTFP にかかる資源管理方法が未成熟です。本課題では、ミャンマー農山村を対象として、NTFP に関する基盤情報をデータベース化し、NTFP の生産と森林資源との関連性を明らかにすること、また NTFP 生産の促進に当たっての生産現場の社会経済状況やサプライチェーン上の問題点などを明らかにし、NTFP の効率的利用による自立型農村社会形成を支援することを目標とします。

### ■研究の内容

ミャンマー農山村において 1) NTFP の潜在的育成最適地を探索するためのシステム開発、2) NTFP に関わる伝統的知識の PDB（参加型データベース）化と農民が収集したデータを共有するプログラム開発と実証実験、3) NTFP の栽培を含めた生産導入に当たっての社会経済的な問題点の抽出（地域内での社会経済的格差）とその際のアクションリサーチの有効性についての検証、4) NTFP の販路拡大のためのサプライチェーン上の問題点を抽出する手法を開発し、さらに生産拡大のための農村開発モデルを提案しました。

### ■研究成果及び環境政策等への貢献

NTFP による多製品の効率的利用を考慮した「生物多様性保全」への新たな評価軸を加えることにより、森林資源の持続的管理に多様なオプションを加えることが可能となりました。たとえば、野生植物保護施策に必要な科学的根拠を植物標本とデータベースで提供できるようになりました。また、NTFP とその利用に関わる伝統知を保護する目的で、データベースが法整備に利用できるようになりました。さらに、ボトムアップの視点から、住民林業の適正な導入方法など、地元の状況に沿った森林保全モデルプランを提案できます。本課題の成果はミャンマー森林局が策定する「森林資源管理 10 年計画：2016～2025」のなかに組み込まれ、NTFP 資源管理に応用される予定です。さらに本提案は SDGs 目標 1：「貧困の撲滅」や 15：「陸域生態系の保全・持続可能な管理」など複数の目標達成に資することができます。

